

「信州 知の連携フォーラム(第3回)」報告

MLAリレー式ワークショップその①:寺社のMLAを体験する ～地域の文化資産を見て・知って・整理して・発信する～

鈴木 映梨香 (信州大学工学部図書館)
羽生 将昭 (信州大学農学部図書館)
湯本 寛深 (信州大学中央図書館)
吉澤 明莉 (信州大学繊維学部図書館)

1. はじめに

2019年3月8日(金)・9日(土)に「第3回信州 知の連携フォーラム: 寺社のMLAを体験する～地域の文化資産を見て・知って・整理して・発信する～」が開催された。

「信州 知の連携フォーラム」(以下、フォーラム)とは、2016年に発足した集いの場である。長野県内の各種文化施設(博物館、美術館、図書館、文書館などのいわゆるMLA)が、地域資源の共有と発信についてフロアを交えて語り合う場となることを目指している。第1回は2016年12月、第2回は2018年2月に信州大学中央図書館で開催され、県内文化施設の館長・部長らが登壇し、講演やトークセッションが行われた。

過去2回のフォーラムを通じて、地域資源の共有・発信の実情に即し、かつ実務担当者の相互理解を深められる内容が求められていることがわかってきた。そこで第3回は、MLAが所蔵する文書や、仏像・仏具・仏画といった博物資料・美術品などの多様な資料が残されている寺院に着目し、寺院資料を題材に体験型のプログラムとして講義と書誌カード¹⁾作成体験を行った。実際に資料を見て・知って・整理する体験を通して、地域の文化資産を次世代に残し、活用するノウハウを共に学ぶことを第3回の目標とした。また今回より、県内の文化施設がリレー形式で企画・運営を担うこととなり、その第1弾として信州大学附属図書館が主催となって開催した。

なお、これまでのフォーラムの詳細²⁾³⁾や、大学図書館がMLA連携に携わる意義の考察⁴⁾については、それぞれの報告書を参照されたい。本稿では、第3回フォーラムについて報告するとともに、今後のMLA連携のあり方を考える。また、基本的には主催者目線での報告となるが、筆者らがフォーラムに参加者としても出席したことをふまえ、参加者の視点を交えて報告することを予めお断りする。

2. 開催概要

2-1. プログラム

第3回フォーラムのプログラムは以下のとおりである。

- ・2019年3月8日（金） 会場：信州大学中央図書館
 - 13：10～13：40 お寺資料の調査の実際（講義）
 - 13：40～15：10 和古書の目録作成①（ワークショップ）
 - 15：10～15：20 「書物の歴史ミニ展示」のご紹介
 - 15：20～16：10 和古書の目録作成②（ワークショップ）
 - 16：10～16：30 質疑応答とまとめ・今後のMLA連携にむけて

- ・2019年3月9日（土） 会場：佛法紹隆寺（オプション）
 - 11：00～12：00 佛法紹隆寺のお蔵・お堂の見学
 - 12：00～13：00 昼休憩
 - 13：00～16：00 和古書の目録作成（ワークショップ）

第3回フォーラムは、オプションを含む2日間をかけて開催され、長野県内外から42名が参加した。ワークショップに使用した資料を所蔵する佛法紹隆寺（以下、仏法寺）は、長野県諏訪市にある真言宗寺院である。諏訪地域の有力寺院であり、信濃国高島藩の祈禱寺院や僧侶の学問所としての役割を果たしてきたため資料が豊富に収集されたという特色を有する。2003年5月より渡邊信州大学附属図書館長（以下、渡邊館長）が仏法寺所蔵資料の悉皆調査（以下、仏法寺調査）を行っている縁から、仏法寺に第3回フォーラムへの協力を依頼した。ワークショップの講師は、渡邊館長と共に仏法寺調査を行っている早稲田大学文学学術院の門屋温氏に依頼した。講義は、著者の一人であり、仏法寺調査に学生時代から関わっている鈴木が担当した。

2-2. 実施体制・開催準備

第3回フォーラムの実施にあたり、信州大学附属図書館の主催、県立長野図書館・長野県信濃美術館・長野県立歴史館の共催、長野県の後援のほか、仏法寺・諏訪市博物館の協力を得た。また、「信州大学附属図書館セミナー」および「信州発・これからの図書館フォーラム」を兼ねている。

企画メンバーとして、信州大学附属図書館の若手職員を中心に有志を募り、計11名で企画・運営にあたった。複数回行われた打合せでは、長野・上田・伊那と県内各地に点在する学部図書館の企画メンバーに配慮し、テレビ会議システムが用いられた。またフォーラム初日は、県立長野図書館との職員交流研修⁵⁾の期間を合わせ、スタッフの一員として協働してもらった。

事前の準備として、ワークショップで参加者がスムーズに書誌カードの作成を体験でき、かつ、フォーラム終了後にも参照できるように、書誌カードの作成方法を、マニュアル「佛法紹隆寺所蔵古典籍書誌カードのとり方⁶⁾」として明文化した。このマニュアルは、事前にメールで参加者に送付されたほか、第3回フォーラム終了後に、他の資料と共に信州大学機関リポジトリに掲載され、オンライン上で誰でも自由に閲覧することが可能となっている。

また、書誌カードを作成する資料は、あらかじめ企画メンバーが選定し、書誌カード作成の難

易度別にリスト化するなど、円滑な進行となるように工夫された。なお、これらの資料は、仏法寺調査によりすでに書誌カードが作成されており、その書誌情報一覧も第3回フォーラム終了後に信州大学機関リポジトリに掲載した⁷⁾。これにより参加者が自身が作成した書誌カードの内容の正誤を確認でき、ワークショップの内容を振り返ることができるようにした。

3. 実施内容 1日目

1日目は信州大学中央図書館において、仏法寺とその所蔵資料に関する講義と、書誌カード作成のワークショップを行った。約40名の参加者は、事前に4名程度のグループに割り振った。グルーピングにあたって、申込み時の情報により所属や事前知識に偏りがないように気を配り、様々なバックグラウンドを持つ参加者が同じグループで体験できるように心掛けた。参加者には過去のフォーラムに登壇した県内文化施設の館長も含まれた。

3-1. 講義

まずは、寺院における資料調査がどのようなものか、仏法寺を題材に講義が行われた⁸⁾。講義前半は仏法寺という寺院そのものの説明からはじまり、実際に仏法寺で所蔵している文書や仏像などの資料を例に挙げ、寺院にはMLAそれぞれに所蔵されうる資料が幅広く収蔵されていることを解説した。講義後半は、実際に仏法寺での作業風景写真を交えて、寺院調査全体の流れを解説した。調査は「蔵開き・虫干し」による資料の状態の把握からはじまり、「仮番号の挿入」による点数の把握を経て、今回ワークショップで体験した「書誌カード作成」の工程に入る。書誌カードの作成は、以降の「書誌情報の電子化」「目録の作成」という工程の前段階であり、資料の適切な保管のための「蔵書票貼り」や「文化財登録」をする上で元になるデータである。ワークショップで体験する「書誌カード作成」が寺院調査全体の中でどのような位置を占めるのか紹介することで、参加者に本工程の意義や重要性を認識してもらうことを目指した。

3-2. ワークショップ

参加者は仏法寺の和古書（刊本）を各自1点ずつ実際に手に取って書誌カード作成に挑戦した。参加者の和古書への理解度は、「手に取ること自体が初めて」という段階から、「普段の業務で日常的に扱う」という段階まで様々であった。事前に書誌カード作成のマニュアルをメール送付し、当日は仏法寺調査の経験者数名が巡回しサポートすることで、参加者の知識のギャップの均質化や運営の円滑化を図った。講師作成の装丁見本（図1）や後述のミニ展示による実物の提示を交えた解説を聞きながら、参加者同士で情報交換をしつつ書誌カード作成を進め、活発な交流が行われていた。



図1 門屋氏作成の装丁見本

また、会場では、渡邊館長が自ら所蔵する資料で「書物の歴史ミニ展示」を行った。門屋氏の解説においても触れられた卷子本・折本・古活字本・活字本・版本などが展示され、書籍の形態および読書活動の変遷が実物として見られるように展示を行った。休憩時間には、参加者が実際にそれらを手取る姿が見られ、『大般若経』転読⁹⁾の体験も行われた。キャプションなど文字による解説にとどまらず、参加者が実物に触れ、体験する展示を行うことができた(図2)。



図2 展示見学の様子

4. 実施内容 2日目

2日目はオプションとして、会場を仏法寺に移して開催した。実際に資料が利用・蓄積されてきた場所を訪れ、寺院にはMLAそれぞれに所蔵される資料があり、それらが相互に関係しあい、仏法寺の歴史が形作られてきたという事実を体感してもらうことを目的とした。参加者は約30名で、うち1名の地元の方の飛び入り参加を得たことは、「信州における価値ある地域資源の共有化をはかり、新たな知識化・発信を通して、地域住民の学びを豊かに¹⁰⁾」することを目標のひとつとして掲げる本フォーラムにとって、成果といえるだろう。

4-1. お堂とお蔵の見学

普賢堂(お堂)と宝物殿(お蔵)の見学は、仏法寺調査経験のある信州大学人文学部卒業生2名の協力を得て行われた。

普賢堂では、諏訪大社内にあった神宮寺¹¹⁾から廃仏毀釈の難を逃れて運び込まれた仏像を、渡邊館長の解説付きで見学した。現在も信仰の対象として祀られている仏像ではあるが、その装束や形態から、諏訪の地に鎌倉時代の流行がいち早く伝わっていたことがわかるなど、歴史資料としてみることもできる。また、仏像と共に伝来した文書からは、諏訪大社内に神宮寺が再興した際には仏像を戻そうと計画されていたこともわかる。仏法寺に現在所蔵されている資料の来歴をたどることで、仏法寺が諏訪地域における有力寺院として役割を果たしてきたことを学んだ。

宝物殿の上階では、資料が所蔵されている現場を目の当たりにし、古くは室町時代の資料が現代まで残されてきたことの意味を考えるきっかけとなった。仏法寺には、現在推定8000冊もの資料が所蔵されている。これは仏法寺が果たしてきた「真言宗の学問所」という役割の反映である。資料を通して、それらを使って学んだ僧侶たち、資料を伝え保管してきた歴代住職や地元の人々の意志に触れる機会となったのではないだろうか。仏法寺調査に携わってきた卒業生による解説を聞き、参加者から質問が投げかけられる場面もあった。宝物殿の下階には、仏像のほか絵画や文書などが、当代の住職作成の説明文と共に展示されている。展示替えも頻繁に行われており、貴重な所蔵資料を間近で見ることのできる機会が提供されている。

さらに、仏法寺所蔵資料に比較的良好な状態のものが多い要因として、気候による影響もある。

信州は低温・低湿であるため虫やカビの活動が妨げられ、資料の保管に適した土地だといえる。このように、寺院に資料が現存することの背後には、その寺院が果たしてきた役割や、資料を使った人々、資料を残そうとした人々、そして自然の影響など、様々な要因が存在している。

4-2. ワークショップ

2日目は、1日目の資料（刊本）よりも難易度の高い資料（写本）に挑戦したり、協力して書誌カードを完成させようとしたりする参加者の姿が見られ、和気藹々とした雰囲気の中でワークショップが進んでいった。

アンケートの自由記述欄からは、「普段は扱えない古文書を扱えた」「和装本が少しだけ近くなった気がした」「作業は面白く熱中した」など、ワークショップ形式への評価、「参考書などを読むだけではわかりにくい点も詳しく教えていただけたのが良かった」など、サポートの充実に対する評価、「グループ内で確認し合ったり」「立場や職種の違う方々と一緒に作業できる時間があつたこともよかった」など、グループで行ったことに対する評価がみられた。

また、閉会に際して、仏法寺調査の次なる段階である蔵書票貼りの作業を、参加者に体験してもらおうと、今後予定している「蔵書票貼り大会」について案内した。第3回フォーラムで体験した作業は、調査のプロセスの一部であること、調査を安定して継続するためには多くの人の協力が必要であることなどを参加者に伝えたいという主催者側の思いがあつたからである。前述のように、信州の人と自然に守られてきた資料を後世に伝えていくこと、それはフォーラムにとって大きな使命のひとつである。この蔵書票貼り大会は、2019年9月から12月までに19日間開催され、延べ96名が参加した。第3回フォーラムを単発のイベントとして終了させることなく、継続的な活動としていく試みであつた。

5. 大学図書館の新たな使命からみた第3回フォーラム

第3回フォーラムを企画する前段階には、2018年10月20日（土）・21日（日）に開催された仏法寺におけるワークショップがあつた。このワークショップでも、仏法寺にて書誌カード作成体験と寺院施設の見学が行われた。普段から仏法寺調査に参加している信州大学の学生のほか、目録業務に携わる図書館職員など、図書館関係者を中心に様々な立場の15名ほどが参加した。このワークショップ中に、参加者との意見交換が書誌カードの項目の見直しにつながる場面もあり、研究活動における試行錯誤の様子が垣間見られた。参加者から「研究者の活動の実情を知ることができてよかった」との声があつた。こうした様子から、第3回フォーラムの題材にすることで、さらに多くの人に、仏法寺の多様な所蔵資料に加えて研究活動を知ってもらえるのではないかという話があがり、第3回フォーラムとして体験型プログラムを企画することとなった。

また前述した通り、第3回フォーラムの配布資料と使用した和古書の書誌情報一覧は、信州大学機関リポジトリで公開されていることから、大学図書館の新たな使命という視点で考えると、第3回フォーラムは人文系の研究者の研究データを知る機会を提供し、公開するひとつのモデル

になったともいえる。信州大学は、第3期中期目標・中期計画を推進する具体策をまとめた『PLAN the N・E・X・T 2019-2021』で、「多様な学術情報の提供・発信による教育・研究成果の社会への還元」を、学術情報に関する目標として掲げ、「オープンアクセス、オープンサイエンスによって社会に寄与」することを明記している¹²⁾。これを受けて2019年7月に信州大学附属図書館学術情報・図書館委員会の下に設置されたオープンサイエンス推進部会では、研究データのオープン化に向けて、研究者に研究データについてヒアリング調査を行っていく予定である。第3回フォーラムは、信州大学附属図書館にとっても、研究者の研究データを知るための第一歩となったのではないだろうか。

6. おわりに：長野県における今後のMLA連携の推進に向けて

参加者に依頼したアンケートでは、両日ともほぼすべての回答が「とても良かった」であり、参加者の満足度が非常に高いフォーラムであったといえる。著者の一人である湯本も、実際に参加者として書誌カードを作成したが、グループで取り組んだことで、わからないところについて相談するにとどまらず、それぞれの専門の視点からみた話を聞くことができ、一人で作業するよりも得るものが多かったように感じた。主催者としても、参加者の方々の積極的に楽しもうとする姿勢により、活発な交流が生まれ、よいワークショップであったと感じた。また、アンケートには「現物を手に取って実習できるプログラムは、今後にも生かせるのではないか」という意見もあり、第3回で行ったワークショップの成功は、リレー形式で企画・運営を担っていく今後のフォーラムのひとつの方向性を示すことになったのではないだろうか。

MLA連携を今後進めていくうえで必要な取り組みをアンケートで尋ねたところ、自由記述欄には、各機関が相互にそれぞれの取り組みや利用者などを理解する必要性があるとの意見が複数みられた。冒頭で述べたとおり、フォーラムは、長野県内の各種文化施設が地域資源の共有と発信について語り合う場である。第1回・第2回と同様、第3回フォーラムにも、各館の館長、県の文化行政担当者が参加し、関係機関の横のつながりの構築や相互理解を促す場にもなっている。さらに、今回より関係機関がリレー形式で主催を担当することとなった。これまでは信州大学附属図書館を会場として開催してきたが、今後、主催機関が変わっていくことによって、フォーラム参加者は主催となった機関に対する理解を深め、さらには主催となった機関の利用者も、MLA連携に関わる諸々の取り組みを知る機会を得るといった効果が期待できるのではないだろうか。

次回のフォーラムは県立長野図書館が主催となって「信州・知のポータル」を用いた内容で行うことが企画されている。「信州・知のポータル」とは、「アーカイブやデータベースなどの外部情報と接続することで、非収蔵情報についても横断的・統合的に見つけることができるしくみ¹³⁾」であり、本稿執筆現在、県立長野図書館の図書館改革事業として構築が検討されているシステムである。長野県は『しあわせ信州創造プラン2.0』で、「人生100年時代の多様な働き方や生き方を見据え、人生のあらゆる場面で必要な学びや学び直しに取り組むことができる環境を作り、子

「信州 知の連携フォーラム（第3回）」報告

どもから大人まですべての世代の誰もが必要な情報を手にすることができる仕組みが必要¹⁴⁾と述べている。「信州・知のポータル」は、この具体的な施策のひとつであり、様々な主体が所有している信州に関する情報の相互活用を推進し、インターネットを通じて誰もが使えるデジタル情報基盤を整備することを狙いとしている。MLAはもちろんであるが、実際に各機関が所有する情報を必要としている利用者や地域住民もまた、MLA連携を進めていく上でのキーパーソンといえるのではないだろうか。

今後もフォーラムを始めとした様々な機会を通じて、各機関が相互理解を深めるとともに、情報を必要とする各機関の利用者や地域住民と共に模索しながら、MLA連携のあり方を見出し、実践していくことを期待したい。

最後に、第3回フォーラムを開催するにあたってご協力いただいた、講師の門屋先生、信州大学人文学部卒業生の皆様、仏法寺の皆様に深く感謝を申し上げます。

注・引用文献

- 1) 書誌カードとは、寺院調査において用いられる、主に書物を対象とした資料の情報を記録するための用紙である。仏法寺調査では、表紙の色や寸法、成立年など、およそ74項目の情報を記録している（文末の付録を参照）。「調査カード」と呼ぶことも多く、国文学研究資料館のWebサイトでは、4種類の調査カードが公開されており、調査の目的にあわせて選択できるようになっている。
国文学研究資料館. "文献調査（地域資料専門部会委員の方へ）".
<https://www.nijl.ac.jp/activity/business/investigation/literature-survey.html>, (参照 2019-11-22).
- 2) 信州大学附属図書館. "「信州 知の連携フォーラム（第1回）」報告：信州の地域資源と学びの支援：戦略的MLA連携による地域創生". 信州大学附属図書館研究. 2017, 6, p. 157-173,
<http://hdl.handle.net/10091/00019501>, (参照 2019-11-22).
- 3) 森 いくみ. "「信州 知の連携フォーラム（第2回）」報告：コンテンツの再価値化：地域の文化資産を繋ぎなおし、読み解きなおす". 信州大学附属図書館研究. 2019, 8, p. 187-206,
<http://hdl.handle.net/10091/00021296>, (参照 2019-11-22).
- 4) 森 いくみ, 小島 浩子, 武田 佳代, 滝口 智子, 湯本 寛深, 後閑 壮登, 鈴木 映梨香, 羽生将昭, 伊東 洋輔, 吉澤 明莉, 渡邊 匡一. 小特集, MLA連携：「信州 知の連携フォーラム」におけるMLA連携の試み. 大学図書館研究. 2019, 112, 14p,
<https://doi.org/10.20722/jcul.2041>, (参照 2019-11-22).
- 5) 朝倉 久美, 畔上 友里. "「共につむぐ“知の拠点”をめざして」：信州大学附属図書館と県立長野図書館の職員交流研修報告". 信州大学附属図書館研究. 2020, 9, in press.
- 6) 信州大学附属図書館. "佛法紹隆寺所蔵古典籍書誌カードのとり方". 信州 知の連携フォーラム

- (第3回) MLAリレー式ワークショップその①：寺社のMLAを体験する～地域の文化資産を見て・知って・整理して・発信する～. 2019-03-08/09, 信州大学附属図書館. 2019, 12p, <http://hdl.handle.net/10091/00021303>, (参照 2019-11-22).
- 7) 渡邊 匡一. "信州知の連携フォーラム (第3回) 古典籍目録ワークショップ用データ". 2019-03-14. <http://hdl.handle.net/10091/00021307>, (参照 2019-11-22).
- 8) 鈴木 映梨香. "寺院資料調査の実際：佛法紹隆寺蔵書を題材に". 信州 知の連携フォーラム (第3回) MLAリレー式ワークショップその①：寺社のMLAを体験する～地域の文化資産を見て・知って・整理して・発信する～. 2019-03-08/09, 信州大学附属図書館. 2019, 22p. <http://hdl.handle.net/10091/00021301>, (参照 2019-11-22).
- 9) 大部の経典を扇をひろげるようにばらばらとひるがえして読むのになぞらえたり、本文の読誦を省略し、経題・訳者名、あるいは経の初・中・終の要所を読んで全体を読むのに代えること。『例文仏教語大辞典』. JapanKnowledge.
- 10) 信州大学附属図書館. "「信州 知の連携フォーラム (第1回)」報告：信州の地域資源と学びの支援：戦略的MLA連携による地域創生". 信州大学附属図書館研究. 2017, 6, p. 157-173, <http://hdl.handle.net/10091/00019501>, (参照 2019-11-22).
- 11) 神社に付属して置かれた寺院。境内または遠隔地に建立された。神仏習合思想のあらわれで、神を守護することを目的にし、その社僧（別当）が神前読経など、祭祀を仏式で行った。明治元年（一八六八）の「神仏分離令」によってほとんどが廃絶、あるいは独立した。『例文仏教語大辞典』. JapanKnowledge.
- 12) 信州大学. PLAN the N・E・X・T 2019-2021. 信州大学役員会, 2019, 22p, <https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/publication/summary/2019/planthenext2019-2021/>, (参照 2019-11-22).
- 13) 県立長野図書館. 県立長野図書館業務コンピュータシステム仕様書. p. 2-3, http://www.library.pref.nagano.jp/osirase_190905, (参照 2019-11-22).
- 14) 長野県. "第4編 総合的に展開する重点政策 1.学びの県づくり". しあわせ信州創造プラン2.0～学びと自治の力で拓く新時代～長野県総合5か年計画. 長野県企画振興部総合政策課, p. 33, <https://www.pref.nagano.lg.jp/kikaku/kensei/soshiki/shingikai/ichiran/sogokeikaku/keikakuan.html>, (参照 2019-11-22).

参考文献

- 信州大学附属図書館. "【終了報告】信州 知の連携フォーラム (第3回) を開催しました (3月8日～9日)". 2019-03-14. <http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/news/2019/03-3389-0314.html>, (参照 2019-11-22).
- 武田佳代. 特集, 大学図書館における共創型イベントの実践例：信州大学附属図書館における地域との連携イベント. 大学の図書館. 2019, 38(7), p. 106-108.

「信州 知の連携フォーラム (第3回)」報告

付録：佛法紹隆寺所蔵古典籍書誌カード (表)

区分		仮番号																		
著・編・撰者	写・刊 (古活字・木活字・整版・活版) 年次	装丁	料紙	表紙 (原・後) 色・模様など	見返し題 (有・無) / 扉題 (有・無)	尾題 (有・無)	柱題 (有・無)	内題 (有・無)	外題 (有・無) (箋・直) (刷・書) (原・後) (左・中) (単・双)	作品名 (ヨミガナ)										
書写者・書肆名		卷子・折本・列帖・粘葉・袋綴・長帳綴・折紙・洋装本・その他	楮・雁皮・洋紙・その他 ()	箱・帙・袋・その他 (有・無)																
跋 (有・無) 跋者・年記	序 (有・無) 序題・序者・年記	絵 (有・無) 白描・彩色・墨印・色刷・丹緑	所持者・授受者 (□ ↓ □)	数量 (冊・軸・枚)	全 巻の内															
				翻刻・影印・画像 (有・無) (国文研・NDL・その他)																
				保存状態 良・不良 (破・汚・疲・虫)																
				寸法 縦 . cm × 横 . cm																
				匡郭 (有・無) 縦 . cm × 横 . cm (四周単・双 左右双) 界線 (有・無)																
				一面行数 行 一行字数 字																
				丁付 (有・無) 柱・ノドオモテ・ノドウラ・カクレ																
				丁数																
				本文 漢・片・平 書入 (同・別) (墨・朱)																
					蔵書印 (有・無)															
					所蔵者番号 (有・無)															
調査年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日				記録者 _____																

出典：

渡邊 匡一. "佛法紹隆寺所蔵古典籍書誌カード". 信州 知の連携フォーラム (第3回) MLA リレー式ワークショップその①：寺社の MLA を体験する～地域の文化資産を見て・知って・整理して・発信する～. 2019-03-08/09, 信州大学附属図書館. 2019, p. 1. <http://hdl.handle.net/10091/00021304>, (参照 2019-11-28).

付録：佛法紹隆寺所蔵古典籍書誌カード（裏）

仮番号
奥書・刊記など

出典：

渡邊 匡一. "佛法紹隆寺所蔵古典籍書誌カード". 信州 知の連携フォーラム（第3回）MLA リレー式ワークショップその①：寺社の MLA を体験する～地域の文化資産を見て・知って・整理して・発信する～. 2019-03-08/09, 信州大学附属図書館. 2019, p. 2. <http://hdl.handle.net/10091/00021304>, (参照 2019-11-28).